

夢への一手

尾張・知多の10代

1



真剣な表情で将棋を指す木村さん。一宮市羽衣2で

きむら・ののか 2000年、一宮市生まれ、在住。同市開明小、尾西第三中卒業。津島高校2年。東海研修会所属。16年の全国高校将棋選手権大会(女子)で準優勝。趣味はダンサーで歌手の三浦大知さんの音楽を聴くこと、洋服を買うこと。大会には、思考のための糖分補給で、ラムネやチョコレートを持って行く。(色紙は自筆の今年の目標)

セーラー服に肩まで前に打ち込み、反撃の伸びた髪。ぱっちりとした糸口にした。直感でひらいた目で、盤面を見つらめいた渾身の一手。める表情はどんな局面「光が見えた」でも揺るがない。「相勝負は五分に。互いに気持ちを読まれないうちに持ち時間を使い切りよう」。そう。虎視眈眈に、三十秒以内で指さなければならず、「二手間に訪れたときも」。二〇一六年八月、デビューした全国高校将棋選手権で、並み居る女子高生棋士を抑え、いきなり二位に。その名をとどろかせた。

序盤は八方ふさがり。一時は詰められそうになったが動じず、八十五手目の「一手」が形勢を変えた。機能してはなかった攻撃用の「飛車」を取らせ、逆に相手の「角」を取

さんの教室に入り、翌年の小学生大会で初優勝。「思考を重んじて勝つ」。劣勢でもあせらず好機に備え、陣形を着々と築く。その自信が、終盤での的確な判断につながる。それを、全国大会も見習いたい

「指し手が無数に枝分かれしていくところ、興味を湧いた」。「徳川家康」。その心手」を打ち、自滅。きな服を賣るときはと

「自分は一番良し」。「将棋人生で一番悔し

飛躍

木村野乃花

妥協せず 盤面に集中

女子高生棋士の新星 木村野乃花さん(17) 一宮市

年が明けた。史上最年少のプロ棋士として昨年、公式戦最多の二十九連勝を達成した瀬戸市の藤井聡太四段は今春、高校生となり、さらなる躍進が期待される。尾張、知多地方には藤井四段に負けず劣らず一線で活躍する十代が数多くいる。将棋やスポーツ、武道、伝統芸能…。それぞれの夢に向かって挑戦を続ける十代の一手を伝える。